

7月です。今回で、トータル77号目。7が続きます。7月7日発行なら、ますます7が続きましたね。

TOPICS

今月の練習予定

生誕250年の話

# GENERAL PAUSE

## 今月の練習予定

7月の練習予定です。

月	練習日	合奏の時間	曲目
7月	2日	19:30~21:00	音の祭典の練習
	9日	19:30~21:00	音の祭典の練習
	16日	19:30~21:00	音の祭典の練習
	23日	休み	海の日
	30日	19:30~21:00	音の祭典の練習
8月	6日	19:30~21:00	音の祭典の練習

7月号の広報で祭典の出演募集が公募されます。現時点では、祭典を開催する方向で各方面が動いておりますので、吹奏楽団も応募します。

## ヴェートーヴェン生誕250年の話

新型肺炎や東京オリンピックの延期という話題ばかりですが、音楽界の話題でいうと実は今年はヴェートーヴェンの生誕250年の年です。

ヴェートーヴェンは1770年にボンに生まれ、7歳で鍵盤楽器奏者としてデビューし、11歳で初品を発表し、21歳でハイドンに弟子入りを認められウィーンに移住したと言います。季刊誌を読んでおると、ヴェートーヴェンの頃、ピアノが大きく進化をした時代らしいです。ブロードウッドやブロートマンなんてあの時代のピアノに触れると大変なことになると思うので、ピアノには触れません。

生誕250年という節目なので、今回は、ヴェートーヴェンの曲を取り上げたいと思います。

ヴェートーヴェンの曲といえば、某ドラマのテーマ曲に「交響曲第7番」が採用され、年末になるとよく耳にすることが多い「交響曲第9番」だと思います。「交響曲第7番」はヴェートーヴェンが恋をしていた頃に書かれた曲なので、飛び抜けて明るい主題でかかれており、長い苦悩を否定して悟りを開いた「交響曲第9番」あたりはよく知られた曲だと思います。その第九の対をなす作品に「莊厳ミサ曲 作品123」という曲があるそうです。第九の初演の時に、この曲の一部も初演されとされているようです。曲は第6曲までの構成の巨大なミサ曲です。

今年は生誕250年ということもあるので、演奏会で小品や交響曲が取り上げられることがあるかと思えます。

## 編集後記

ポップスでもヴェートーヴェンの曲がモチーフになっている曲が多い中で、アメリカングラフティ4に収録されている「情熱の花」を初めて聞いた時に「なんだこの曲はっ」と、アメリカングラフティ4に対して強く衝撃を受けたのを覚えています。「情熱の花」は「エリーゼのために」がモチーフになっている曲です。（ピーナッツ、ザ・ヴィーナスの「キスは目にして」も「エリーゼのために」がモチーフになっていましたね。）

今の職場に移ってから、暑気払いの宴会の二次会で職場の人たちとオールディーズのライブハウスに行ったことがあります。その時、職場のその世代の人たちが「情熱の花」でノリノリに踊っている姿を見て、アメリカングラフティ4を初めて聞いた時以上の衝撃を受けたのを覚えています（笑） <了>